

2025年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅠ 講義		講 師	佐藤 博美
授業概要	・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)			
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう・鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」なかむらしんいちろう) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」江花志乃)			
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。計6コマ	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 4/11 オリエンテーション 夜間(対)			
	2 4/18 クラス活動① 夜間(ブ)			
	3 4/25 三浦サニー先生のコミュニケーションプログラム(NS1 金7限 20:00～21:30 4月25日(金)) 夜間(対)			
	4 5/9 クラス活動② 夜間(ブ)			
	5 5/16 クラス活動③ 夜間(対)			
	6 5/23 産学連携			
	7 5/30 クラス活動④ 夜間(ブ)			
	8 6/6 クラス活動⑤ 夜間(対)			
	9 6/13 クラス活動⑥ 夜間(ブ)			
	10 6/20 クラス活動⑦ 夜間(対)			
	11 6/27 クラス活動⑧ 夜間(ブ)			
	12 7/4 産学連携			
	13 7/11 クラス活動⑨ 夜間(対)			
	14 7/18クラス活動⑩ 夜間(ブ)			
	15 7/25クラス活動⑪ 前期終了 夜間(対)			
	16 9/12 オリエンテーション 後期開始 夜間(対)			
	17 9/19 クラス活動⑫ 夜間(ブ)			
	18 9/26【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう・鈴木八重子 夜間(対)			
	19 10/3【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:千葉幸 夜間(対)			
	20 10/10 クラス活動⑬ 夜間(ブ)			
	21 10/17 産学連携			
	22 10/24 就職にむけて(1)担当就職相談室 夜間(ブ)			
	23 10/31【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代 夜間(対)			
	24 11/7 就職に向けて(2)担当就職相談室 夜間(ブ)			
	25 11/14【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」 課題提出 夜間(対)			
	26 11/21 クラス活動⑭ 夜間(ブ)			
	27 11/28 産学連携			
	28 12/5【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:江花志乃 夜間(対)			
	29 12/12 クラス活動⑮ 夜間(ブ)			
	30 12/19【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:なかむらしんいちろう 課題提出 後期最終日 夜間(対)			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	佐藤 博美:実務経験のある教員。 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者・絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者 ○鈴木八重子:前講座責任者 ○:障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○千葉幸:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2025年度 講義要綱

科 目	必修 体育講義 講義		講 師	菊池 一英	
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。				
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。				
到達目標1	1. 保育現場を想定して、実際の指導内容を、年齢発達に沿った編成ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢・グループワーク討論への貢献度(20点) リアクションペーパー提出(30点)		
到達目標2	2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、各年齢に合わせて、実技種目で身体を動かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技種目で積極的に体を動かす(20点)チームで協力する姿勢を見せる(30点)		
授業方法	講義形式、グループワークトーキング(GW)、DVD視聴、実技体験				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要、目標、評価、服装など) 領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？				
	2 運動遊具を使う遊び(マット)※実技				
	3 幼児体育の意義と社会的背景とは？				
	4 運動遊具を使う遊び(巧技台)※実技				
	5 保育現場での体育的活動の実際ー設定保育と自由保育ー<DVD視聴>				
	6 産学連携				
	7 リズムダンス遊び※実技(さんぼ他)				
	8 健康観の変遷				
	9 体育、幼児体育の歴史的変遷				
	10 体育遊びへの導入と展開(鬼遊び)※実技野外指導				
	11 健康とは何かを問い直す<DVD視聴>				
	12 産学連携				
	13 幼児期の身体発達と運動能力の特徴				
	14 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？				
	15 発育・発達・成長とは何かを問い直す<DVD視聴>				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育原理		必修 講義	講 師	大河 芙美
授業概要	・事例を通して保育の知識や目的などを学習する。 ・子どもの姿を知り、子どもに寄り添う保育を考える。 ・グループ学習やゲームを通して、保育者にとって大切なコミュニケーション力を養う。				
授業目標	・保育の考え方、自己分析力、観察力を養い、自ら行動する積極性を身に付ける。 ・チームワーク、連携を大切にし、安定した人間関係が構築できるようになる。				
到達目標1	積極的に授業に参加し、社会人としての心得を身につける。また、コミュニケーションをとりながら自分が大切にしたい保育を探ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		出席率、 授業態度(積極性、コミュニケーション力など)50点	
到達目標2	保育士として使用、守るべき法令、規則が何でもどこを確認すればよいか分かる様になる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		テストによる評価、50	
授業方法	コミュニケーションスキルを身に付けるためにグループワーク、ディスカッションゲーム、課題解決学習など、様々な学習形態を経験していく。				
授業計画	1 ガイダンス～授業の進め方、保育とは何か 保育の目的と意義～				
	2 保育の思想と歴史の理解				
	3 保育に関する法令、制度について				
	4 子どもの最善の利益とは				
	5 子ども・子育て支援新制度				
	6 産学連携				
	7 保育所保育指針とは				
	8 子どもの理解に基づく保育の過程				
	9 保育者の役割と責務				
	10 保育内容について				
	11 子どもを理解する～事例検討～				
	12 産学連携				
	13 子どもを理解する～事例検討～				
	14 保護者支援・対応の在り方				
	15 保育の現状と課題 まとめ				
必須テキスト	『保育所保育指針解説』平成30年3月、厚生労働省				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布いたします。				
担当教員の 専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営の担当部長として保育園運営、研修、監査、園長指導、運営指導に携わる。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	30% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	10% %	

2025年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 講義		講 師	藤高 直之	
授業概要	子どもと子どもを取り巻く環境についての基礎的な理解を深め、福祉専門職として子ども・家庭福祉に関する現状と課題を主体的に捉えることを目的とする				
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
到達目標1	福祉専門職として、現在社会と子ども家庭福祉の現状や課題、福祉制度や福祉サービスの実際、展望について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)		
到達目標2	福祉専門職として、子どもの人権擁護について意見を述べることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)		
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。				
授業計画	1 オリエンテーション・子ども家庭福祉の理念と概念				
	2 子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向				
	3 子どもの人権擁護				
	4 子ども家庭福祉の制度と実施体制				
	5 子ども家庭福祉の施設と専門職				
	6 産学連携				
	7 少子化と地域の子育て支援 母子保健と子どもの健全育成				
	8 多様な保育ニーズへの対応				
	9 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止				
	10 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応				
	11 社会的養護				
	12 産学連携				
	13 障害のある子どもへの対応				
	14 少年非行への対応 / テスト・振り返り				
	15 まとめ				
必須テキスト	「新基本保育シリーズ6 子ども家庭福祉 第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-8786-8				
参考文献	参考資料は授業時に紹介。				
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	社会福祉		必修 講義	講 師	藤高 直之
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。				
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者保護の仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。				
到達目標1	1.子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)		
到達目標2	2.相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)		
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。				
授業計画	1 社会福祉の理念と歴史の変遷				
	2 子ども家庭支援と社会福祉				
	3 社会福祉の制度と法体系				
	4 社会福祉行財政と家庭機関、社会福祉施設等				
	5 社会福祉の専門職				
	6 産学連携				
	7 社会保障および関連制度の概要				
	8 相談援助の理論、相談援助の意義と機能				
	9 相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術				
	10 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ				
	11 少子高齢社会における子育て支援				
	12 産学連携				
	13 共生社会の実現と障害者施策				
	14 在宅福祉・地域福祉の推進、テスト・振り返り				
	15 まとめ				
必須テキスト	「新基本保育シリーズ4 社会福祉 第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-8787-5				
参考文献	参考資料は授業時に紹介。				
担当教員の 専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I		必修 講義	講 師	鍋田 陽介
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学ぶ。 児童虐待についての基本的な考え方や現状などを学ぶ。 要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について学ぶ。 子どもの権利擁護の歴史の変遷や現在の内容について学ぶ。				
授業目標	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。				
到達目標1	現代社会における社会的養護の役割と立ち位置を理解し、具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点) 講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	社会的養護の現状と現在の課題について、論理的に理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート提出(40点) グループディスカッションへの取り組み度(10点)		
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護を学ぶ意味と必要性				
	2 社会的養護の基本的な考え方と歴史				
	3 社会的養護に関わる法制度とその歴史				
	4 児童虐待の種類と現状				
	5 社会的養護の様々な形態				
	6 産学連携				
	7 家庭的養護一里親とはなにか?ー				
	8 社会的養護施設の現状①一子どもたちの生活の姿ー				
	9 社会的養護施設の現状②一支援の原理原則ー				
	10 社会的養護施設の現状③一愛着障害と発達障害の理解ー				
	11 社会的養護施設の現状④一地域連携ー				
	12 産学連携				
	13 社会的養護施設の現状⑤一関係機関との連携ー				
	14 社会的養護施設の今後の展望				
	15 テストと授業の振り返り				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内で紹介します。				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育の心理学		必修 講義	講 師	前川 圭一郎
授業概要	1. 保育実践に関わる発達心理学の基礎知識を学ぶ。 2. 発達心理学や学習心理学の知見と保育実践を結びつけながら学ぶ。 3. 環境と個の相互作用の視点から、個々の発達について具体的に学ぶ。				
授業目標	教育・保育に関わる心理学の基礎的知識を習得し、子どもの発達と学習の過程への理解を深めることを目的とする。 生涯発達の過程とともにその発達が人との相互的関わりを通してなされていくことを理解する。また、子どもの学習の過程に関する基礎的知識を身につけ、主体的な学習を支える基礎を身につける。				
到達目標1	重要な発達理論を理解し、各発達時期の特徴と課題を結び付けて説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(毎回の授業終了時に行うアクションペーパー・小テストへの回答、20点)＋定期試験(30点)＝合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。		
到達目標2	発達と学習の理論を踏まえて、「環境と個の相互作用」という視点から幼児の発達を説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(グループワーク中に行うワークへの参加、20点)+発表レポート(30点)		
授業方法	授業では、遠隔の人も対面の人も参加できるようにSLIDOなどの参加ツールを利用し、グループワーク、課題解決学習等を実施する。 基本的に、対面の場合には、講義・演習形式で行う。 具体的には、課題解決学習、ロールプレイ、等を実施する。				
授業計画	1 オリエンテーション:「心理学」・「発達」とは何か？ 2 身体機能の発達と運動機能の発達 3 乳幼児期の特徴と発達Ⅰ 4 乳幼児期の特徴と発達Ⅱ 5 幼児期の特徴と発達Ⅰ 6 産学連携 7 幼児期の特徴と発達Ⅱ 8 ことばとコミュニケーションの発達 9 情動・社会性の発達 10 発達の多様性と凸凹について 11 「愛着」とは何か(その誤解と実際) 12 産学連携 13 科学に基づいた保育実践(応用行動分析学の視点から保育を考える) 14 就学移行支援と学齢期の支援 15 テスト				
必須テキスト	毎回の授業時に資料を提供する。また、副読本については、授業において随時紹介する				
参考文献	『保育学用語辞典(保育領域)』秋田らほか(2019)、中央法規				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。 『保育学用語辞典』、『段階別でわかる！発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助 必修 講義		講 師	鵜田 陽介	
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。				
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する				
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)		
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)		
授業方法	ワークシートを用いた講義				
授業計画	1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明)				
	2 子どもの育ちを支える現場を知る				
	3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院				
	4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から				
	5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設				
	6 産学連携週				
	7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から				
	8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設				
	9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から				
	10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設				
	11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設				
	12 産学連携週				
	13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設／通所施設				
	14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から				
	15 学期末試験				
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2025』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	子どもの保健 必修 講義		講 師	中村 直美	
授業概要	①子どもの身体の発育、発達の基本を学ぶ。②子ども特有の身体症状や病気について学ぶ。 上記①②の知識を踏まえて 子どもの心身の健康の維持、増進の方法や現状と課題について考えていく。				
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
到達目標1	1.子どもの身体発育、発達の基本、子ども特有の身体症状や病気の基本を知り、それを踏まえた保育の中での保健的対応について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	2.子ども特有の健康に関する問題、課題を知り健康の維持、増進について関心を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)		
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義形式 2, 事例ワーク等を通して保育所での保健活動の実際等を紹介				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について)				
	2 健康の概念について(ブレンデット授業)				
	3 子どもの身体発育の特徴について				
	4 子どもの運動機能の発育、原始反射について(ブレンデット授業)				
	5 新生児の理解と特徴的な病気について				
	6 産学連携 ・「健康だな」と感じた園児の様子を記入してください。				
	7 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気①(脳)(ブレンデット授業)				
	8 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気②(感覚器)				
	9 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気③(循環器)(ブレンデット授業)				
	10 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気④(呼吸器)				
	11 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気⑤(消化器)(ブレンデット授業)				
	12 産学連携 ・保育者は子どもたちに対してどのような暑さ対策(熱中症対策)をしていましたか。				
	13 子どもの健康状態の観察とよくみられる症状について				
	14 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について(ブレンデット授業)				
	15 試験・まとめ				
必須テキスト	最新 保育士養成講座 第7巻 「子どもの健康と安全」				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養 必修 講義		講 師	黒須 友里愛	
授業概要	栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。 また、保育の現場で重要な食育について学ぶ。児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。				
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等				
到達目標1	栄養の基礎的な知識を身に付ける。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	配布プリントの提出(30点)、定期テスト(20点)		
到達目標2	子どもたちをとりまく環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。保育所における食育について理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループディスカッションを行い、課題と改善方法について考える。(20点)、定期テスト(30点)		
授業方法	講義および演習を配布プリントに書き込みながら行う。				
授業計画	1 子どもの健康と食生活の意義(子どもを取り巻く環境、子どもの食生活の現状と課題)				
	2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能				
	3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝				
	4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本				
	5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養				
	6 産学連携「施設に調理室はありましたか？子どもたちに給食を提供している様子が見られた場合、保育者はどのように対応していましたか？」				
	7 産学連携振り返り 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養)				
	8 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活、生涯発達と食生活				
	9 食育の基本				
	10 児童福祉施設や家庭における食事と栄養				
	11 食の安全(食中毒)				
	12 産学連携「保育室内や園庭で子どもたちの安全を守るための環境構成や工夫など気がついた点をあげてください」				
	13 産学連携振り返り 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良および疾病の子どもへの対応				
	14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応				
	15 定期試験				
必須テキスト	今津屋直子・久藤麻子編著 新・子どもの食と栄養 教育情報出版 2022				
参考文献					
担当教員の専門分野等	食品機能学				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育の計画と評価		必修 講義	講 師	中山 利彦
授業概要	保育所保育指針と同解説を用いながら、保育の計画と評価について、その意義と実際の運用について講義を聴き、保育士として理解し習得すべきことを重点的に学んでいく。その際、保育理論に関わる部分も同時に履修する。				
授業目標	1. 保育の全体的な計画及び指導計画を立案作成する意義とその運用を理解する。 2. 全体的な計画に基づく長期・短期の指導計画の作成及び評価の仕方について実際の作成事例を参照しながら、計画及び評価についてどのような点に留意しなければならないのかを理解し、その方法を身につける。				
到達目標1	1. 毎回の授業において習得したことを文字等で表現できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、授業において学んだことに関するレポート(30点)		
到達目標2	2. 毎回の授業において習得した内容を質問や意見を通して深めながら保育の計画と評価の全体像をイメージできる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への貢献度(20点)、授業内容に関する質問や自己意見のレポート(30点)		
授業方法	1. 保育所保育指針と同解説を用いながら、保育の計画と評価の意義と実践について座学形式で学ぶ。 2. 授業内で用いるテキストを学生が音読したり授業内容に関する質問事項に答えたりしながら履修内容を確認する。実際の保育の計画や評価様式から計画の立て方や評価の仕方を実感する。				
授業計画	1 ・なぜ保育の計画と評価について学ぶのか。 ・見守る保育の三省について。 ・シラバスの解説。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	2 ・保育とはそもそも何をすることか。 ・保育所保育の目標。 ・子どもの最善の利益、他。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	3 ・保育とはそもそも何をすることか。 ・児童福祉法、こども基本法、子どもの権利条約他。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	4 ・人的環境、物的環境、空間的環境及び養護と教育の一体性について。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	5 ・保育の方法ー子どもの主体、子ども相互の関係づくり、他。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	6 ・環境 ・子どもの姿				
	7 ・計画性のある保育を実践することの意義。子どもの発達。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	8 ・指導計画の大元となる「全体的な計画」がどういう意味でつくられているのか。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	9 ・長期的な指導計画と短期的な指導計画を作成する。3歳未満児の個別指導計画。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	10 ・実際の子どもの姿に基づいて。保育士が一方的に与える計画ではない指導計画。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	11 ・子どもの主体的な活動を促す保育士等による多様な援助計画 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	12 ・保育者の姿 ・子どもと保育者の関わり				
	13 ・自ら保育実践を振り返り、自己評価をすること。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	14 ・職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための評価。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
	15 ・評価を踏まえた計画の改善。 ・「見守る保育」の読み合わせ。				
必須テキスト	『保育所保育指針解説』(平成30年3月厚生労働省編)藤森平司著『見守る保育』(学研)				
参考文献	平成29年告示保育所保育指針、公益社団法人全国私立保育連盟編『コミックで発信★保育に活かす子どもの権利条約』(エイデル研究所)				
担当教員の専門分野等	25年間認可保育園、認定こども園にて園長・副園長として現場勤務。保育者等の管理者であると同時に、子どもの権利条約、保育所保育指針に沿った保育現場での実践をサポートしてきた。現在、新宿せいが子ども園副園長、東京都福祉サービス評価推進機構評価者、他歴任。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容総論		必修 講義	講 師	大河 芙美
授業概要	子どもを理解し、成長、発達に望ましい関わりができるよう、一人ひとりの育ちを把握し、柔軟な対応力を養う。				
授業目標	各年齢の発達過程を学び、保育内容や導入、その展開方法を学び理解する。				
到達目標1	自己理解を深め、目標に向かって主体的に取り組むとともに、他者との関わりを通して信頼関係を築くことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		出席率、自主的な関わり、50点	
到達目標2	専門的知識や知見を習得し、柔軟に活用することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		他者との協力、グループ制作、50点	
授業方法	グループワーク、ディスカッションなど、コミュニケーションを大切にした授業。				
授業計画	1 オリエンテーション				
	2 保育所保育指針を理解する①				
	3 保育所保育指針を理解する②				
	4 保育所保育指針を理解する③				
	5 産学連携を踏まえた、子どもとの関わり				
	6 産学連携				
	7 産学連携から得た学びのディスカッション				
	8 子どもの育ちを理解する①				
	9 子どもの育ちを理解する②				
	10 遊びを学ぶ				
	11 産学連携を踏まえた、子どもの遊び				
	12 産学連携				
	13 産学連携から得た学びのグループディスカッション。				
	14 模擬保育を考える				
	15 模擬保育を実践する				
必須テキスト	必要時にプリントを配布				
参考文献	保育所保育指針				
担当教員の 専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営の担当部長として保育園運営、研修、監査、園長指導、運営指導に携わる。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	10 %	

2025年度 講義要綱

科 目	必修 保育内容の理解と方法・音楽遊び I 講義		講 師	大須賀 かおり、金渕 洋子、木下 裕子、楠野 麻衣、鈴木 真智子、竹田 えり	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。歌遊びのグループレッスンを45分、ピアノ等の個人レッスンを45分、グループ分けに従って教室を移動して受講する。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に鍵盤と手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A B2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 Aピアノ等による個人レッスン／B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 Aピアノ等による個人レッスン／B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 Aピアノ等による個人レッスン／B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 Aピアノ等による個人レッスン／B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携第6週課題:手遊びやわらべ歌、リズム遊びや子どもの歌等、音楽遊びは現場でどのように活用されていましたか？またピアノやリズム楽器、その他の音楽遊びの環境はどのように設定されていたか、教えてください。 7 Aピアノ等による個人レッスン／Bわらべ歌・手遊び歌の演習 8 Aピアノ等による個人レッスン／B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 Aピアノ等による個人レッスン／B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 Aピアノ等による個人レッスン／Bリトミックを含む歌遊びの演習 11 Aピアノ等による個人レッスン／B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携第12週目課題:保育者が子どもの歌やリズム遊び、わらべ歌等を用いて子どもたちと関わるシーンはありましたか？その働きかけによって子どもたちの心や行動はどのように変化しましたか？感じたことを教えてください。また、そのようなシーンに出会わなかった方は、自分が取り扱いたい曲名1曲と、どんな時に、どんなねらいで用いたいかを書きましょう。 13 Aピアノ等による個人レッスン／B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A B共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A B共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ		必修 講義	講 師	なかむら しんいちろう
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。そして作品製作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」をかなめとし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	授業に参加し、理解する。そして授業時間内に制作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加姿勢、取り組んだ内容、回数で評価。 (常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点＋提出回数や創意工夫などの熱心な姿勢5点		
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出で評価。 (作品を撮影しteamsに画像を提出、提出回数やコメント、締切日厳守で評価) 45点＋その他 ①グループワーク等での周囲との協力する姿勢 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③締切までの課題提出、課題提出状況等の自己管理能力等 5点		
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)＊社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更				
授業計画	1 4/10(木) 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、材料配布、線、点、円の練習＊提出課題:こいのぼりか雨の制作 2 4/17(木) (B)フロッタージュを用いた制作:HB＊提出課題:凸凹を映し取った作品 3 4/24(木) デカルコマニーを用いた制作＊提出課題:デカルコマニーで制作した作品 4 5/8(木) (B)＜講義1＞幼児画特徴について:記入プリント:HB＊提出課題:プリントの一部写真 5 5/15(木) 自然物(草花)を用いた制作(天候を考え、授業の順を入れ替えることもある)＊提出課題:制作した作品 6 5/22(木) 産学連携 ＊造形の授業はないが、課題に回答して提出。 7 5/29(木)(B)○△□を組み合わせた制作:HB:提出課題:画用紙に○△□で構成した絵画作品 8 6/5((木)紙コップを用いた工作とそれを用いた遊び＊提出課題:紙コップで作成した跳ねるカエル 9 6/12(木)(B)色の基本、貼り絵制作:HB＊提出課題:虹色をテーマにした貼り絵作品 10 6/19(木)にじみ絵、はじき絵制作＊提出課題:コーヒーフィルターなどを使った作品 11 6/26(木)(B)＜講義2＞幼児画の発達段階について:記入プリント:H＊提出課題:プリントの一部写真 12 7/3(木)産学連携＊造形の授業はないが、課題に回答して提出。 13 7/10(木)クレヨンを用いたひっかき絵制作＊提出課題:制作した作品全て 14 7/17(木)(B)紙の加工、ハサミの使い方:HB＊提出課題:ミックスドリンク 15 7/24(木)スタンプやビー玉転がしを使ったスミイーの世界の制作と魚釣り遊び＊提出課題:制作した作品全て				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	なかむら(NS1):絵本作家、イラストレーター・川原(NT1):児童教育全般、小学校講師・加藤(G1): 絵本作家、イラストレーター				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅰ		必修 講義	講 師	中村 直美
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達の過程を学習します。また、その発達の姿を追いながら援助の方法や保育内容等の基本を学びます。				
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	1, 乳児保育の意義や目的、歴史などの基本的な知識を知り具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	2, 乳児の成長、発達過程等を知り、保育の中でのその姿を想定しながら配慮事項などを具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)		
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 乳児向けの手遊びや絵本、紙芝居の紹介				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について)				
	2 乳児保育とは(ブレンデット授業)				
	3 乳児保育の歴史について				
	4 乳児保育を支える法律について(児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準など)(ブレンデット授業)				
	5 乳児保育の基礎知識① 人間の赤ちゃんは無力なの？(ポルトマンの生理的早産と乳児の生得的な特性)				
	6 産学連携 ・「乳児が大切にされている」と感じたのはどのような場面でしたか？				
	7 乳児保育の基礎知識② 愛着形成(ボウルビイの愛着理論)(ブレンデット授業)				
	8 保育所での愛着形成について、1～2か月、3～4か月児の発達の特徴				
	9 5～6か月児の発達の特徴、乳児の睡眠について(ブレンデット授業)				
	10 7～8か月児の発達の特徴、SIDSについて				
	11 9～10か月児の発達の特徴 乳児の授乳について(ブレンデット授業)				
	12 産学連携 ・保育者はどのような雰囲気です乳児と関わっていましたか？				
	13 11～12か月児の発達の特徴 乳児の離乳食について				
	14 1歳～1歳6か月児の発達の特徴 1歳6か月～3歳未満児の発達の特徴 (ブレンデット授業)				
	15 試験・まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」 志村聡子編著者 同文書院				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ		必修 講義	講 師	中村 直美
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ3歳未満児の発達過程を踏まえて、実際の保育の場での援助方法、関わり方等を実習室での実習や、対応ワーク等で演習しながら学ぶ。				
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	1, 3歳未満児の発達過程やその特徴を理解し具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	2, 3歳未満児の日常生活の援助の方法がわかり実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)		
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 実習室での実技演習				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 身支度、抱っこの仕方、おんぶの仕方の実際(講義&実習)				
	2 乳児の衣服の基礎知識、衣服の着せ方、脱がせ方の基本について(ブレンデット授業)				
	3 乳児の排泄の基礎知識、オムツ交換の仕方の基本について				
	4 乳児の衣服の着脱方法、オムツ交換の実際(実習)				
	5 乳児のからだの清潔の基礎知識、沐浴の基本について(ブレンデット授業)				
	6 産学連携 ・乳児クラス(0.1.2歳)の保育環境を見て配慮されていると感じたことを記入してください。				
	7 事例ワーク(ブレンデット授業)				
	8 沐浴の実際(実習)				
	9 授乳、冷凍母乳、離乳食の基礎知識について(ブレンデット授業)				
	10 授乳、離乳食の実際(実習)				
	11 事例ワーク(ブレンデット授業)				
	12 産学連携 ・「保育者と乳児が関わっている場面を見て感じたこと」を記入してください。				
	13 かみつき、ひっかきについて考える①				
	14 かみつき、ひっかきについて考える②(ブレンデット授業)				
	15 試験・まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」 志村聡子編著者 同文書院				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全		必修 講義	講 師	中村 直美
授業概要	保育における健康、安全の管理に関する知識を知り、具体的な方法を体験し、自分自身や仲間と考えることで実践力を養っていく。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	1.保育現場における保健的観点を踏まえた衛生管理や感染対策についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容についての試験(20点)		
到達目標2	2.保育現場における保健的観点を踏まえた安全管理や救急対応についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容についての試験(20点)		
授業方法	パワーポイントを使用した講義で基本を学び、グループワークや演習で体験し、学習を深めていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について)				
	2 健康観察(身体測定、健康診断)と年間保健計画について(ブレンデッド授業)				
	3 保育環境の整備、衛生管理について				
	4 子どもの事故の特徴について				
	5 保育所での事故防止と安全管理について(ブレンデッド授業)				
	6 産学連携 ・保育室内や園庭で子どもたちの安全を守るための環境構成や工夫など気がついた点をあげてください。				
	7 災害への備えと危機管理について(ブレンデッド授業)				
	8 救急時の対応について				
	9 体調不良や傷害の対応について(ブレンデッド授業)				
	10 子どもと感染症①(基礎知識)				
	11 子どもと感染症②(標準予防策、保育所での集団発生への対応)(ブレンデッド授業)				
	12 産学連携 ・感染症から子どもたちを守るために、保育者が行っていたこと(環境設定、働きかけ、声かけ等)を記入してください。				
	13 子どもと感染症③(嘔吐処理の方法)				
	14 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー)について(ブレンデッド授業)				
	15 試験・まとめ				
必須テキスト	全国社会福祉協議会 最新 保育士養成講座第7巻 「子どもの健康と安全」				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ		必修 講義	講 師	鍋田 陽介
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学ぶ。 支援の基盤となる支援計画の作成方法を学び、実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。				
授業目標	社会的養護における支援計画及び具体的な支援方法について理解する。 自身の性格や傾向を知り、専門職としての意識を高める。				
到達目標1	社会的養護の具体的な支援方法を理解した上で、施設実習に挑む心構えを作る事ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) 筆記試験(20点)		
到達目標2	保育士の社会的意義を理解して、どのような役割を持っているかを理解し、就職後の心構えを作ることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとのレポート(40点) ディスカッションへの参加態度(10点)		
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れ、主体的な参加型の授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業方法や成績評価)／社会的養護Ⅰの復習				
	2 社会的養護施設の子どもたちへの理解				
	3 子どもの権利				
	4 生活支援と治療的支援				
	5 自立支援とアフターケア				
	6 産学連携				
	7 子どもと向き合うということ				
	8 社会的養護を必要とする親子への理解				
	9 愛着障害児への理解と支援方法				
	10 情報収集とアセスメント				
	11 自立支援計画の作成				
	12 産学連携				
	13 ケーススタディ				
	14 社会的養護の教科の振り返りと今後の展望				
	15 テストと授業の振り返り				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内において紹介。				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。児童養護施設・発達障害児支援施設での経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a		必修 講義	講 師	松森 照幸
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。				
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	報連相が出来ている(現場連携週電話報告、オリ日程報告など)(20点)、提出物(保育教材、日誌など)(30点)		
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	絵本準備・発表(20点)指導案などの提出物(10点)筆記試験(20点)		
授業方法	講義、発表、グループワークなど				
授業計画	1 保育実習の概要 実習 I 準備アンケート、ペープサート紹介				
	2 .実習の心得 個人票作成 エピソード日誌の基本を知る				
	3 保育所の1日の流れと保育内容の理解 実習目標を立てる ゲスト講師を招いて講義				
	4 エピソードの書き方の基本を知る 実習日誌を書く意義と記入の仕方				
	5 実習日誌:エピソード記録の書き方について 現場連携準備				
	6 産学連携				
	7 見学内容を記録する 実習課題下書き				
	8 部分実習指導計画について 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認				
	9 オリエンテーションについて 実習日誌の書き方				
	10 グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成				
	11 実習準備(実習課題清書) 試験対策				
	12 産学連携				
	13 試験 手遊び・絵本の読み聞かせの発表・ペープサートの発表				
	14 まとめと振り返り・お礼状の書き方				
	15 最終確認 ※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります				
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b		必修 講義	講 師	藤高 直之
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務 等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明)				
	2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1)				
	3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2)				
	4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ)				
	5 関わりの技術②:「視点」を養う				
	6 産学連携週				
	7 子どもの育ちの理解③:発達障害				
	8 関わりの技術③:療育場面より				
	9 施設実習先の発表				
	10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備				
	11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1)				
	12 産学連携週				
	13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2)				
	14 実習日誌の理解と練習				
	15 施設実習への具体的準備:実習前／実習中／実習後にすること				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	子ども家庭福祉(主に子育て支援)が専門。大学教員と並行して社会福祉士及び保育士として、大学付属の子育て支援センターで活動中。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2025年度 講義要綱

科 目	子どもと保育		選択必修 講義	講 師	松森 照幸
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。				
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。				
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	スケッチブックシアター提出(20点)、スケッチブックシアター発表(10点)、お礼状など課題(10点)、その他提出物(10点)		
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実習Ⅱ 自己開拓用紙取り組み方、提出(20点),エプロン提出(20点),時系列日誌提出物(10点)		
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。				
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する				
	2 「保育所的一天」一日のながれを知り、実習をイメージする				
	3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する				
	4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる				
	5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う				
	6 産学連携現場活動				
	7 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする				
	8 エプロン縫い付け				
	9 「お礼状の書き方」を知り、実践する				
	10 日誌の書き方① 日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す				
	11 実習DX練習				
	12 産学連携現場活動				
	13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する				
	14 日誌の書き方③ 「まとめ」前期授業で学んだ事を整理し、実習への道しるべを立てる				
	15 わくわくタイム ※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります				
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)				
参考文献	なし				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ		選択必修 講義	講 師	上田 亜津子、大須賀 かおり、金渕 洋子、木 下 裕子、佐藤 季里
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 15回目の実技試験課題はピアノ曲1曲、子どもの歌1曲の弾き歌いを演奏する。自身のスキルに合わせた曲目選択は担当講師とよく検討し決定すること。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に鍵盤・手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A ②2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 ①ピアノ等による個人レッスン／②歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ①ピアノ等による個人レッスン／②保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 ①ピアノ等による個人レッスン／②現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ①ピアノ等による個人レッスン／②子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 後期産学連携第6週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、音楽遊びを園生活の中で必要に応じて展開する際、保育者はどんなことに気を付けたらよいか、考えを教えてください。 7 ①ピアノ等による個人レッスン／②わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ①ピアノ等による個人レッスン／②簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ①ピアノ等による個人レッスン／②リトミックを含む歌遊びの演習 11 ①ピアノ等による個人レッスン／②互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 後期産学連携第12週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、11月ならどんな歌遊びを、どんな展開で子どもたちと楽しみたいか、対象年齢も決めた上で教えてください。 13 ①ピアノ等による個人レッスン／②個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A ②共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A②共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子の歌』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	